広告

シリーズ
施策へのトビラ

川浪香織さんも策定に携わった第5期石狩市総合計画。「いしかりしまちづくり本」として11月9日（月）から市役所などで配布されます。皆さんもぜひ手に取って、まちの未来を一緒に考えてみませんか！
→詳しくは7ページをご覧ください！

審議会では、30人の委員が5人1組のグループに分かれ、「30年後のいしかりに向けての想い」や「いしかりの将来に向けて大切なこと」などのテーマについて活発に意見を出し合いました。それをベースに描き出されたのが、総合計画の“目指すまちの姿”です。

第5期石狩市総合計画 2015—2022

石狩市総合計画策定審議会委員として まちを見つめ、未来に思いを馳せた2年間

川浪香織さんは、石狩で生まれ育った生粋の石狩っ子。現在、幼稚園の先生として市内で働いています。その川浪さんが石狩市総合計画を策定する審議会委員になったのは、藤女子大学花川キャンパスに通っていた3年生のときで、ゼミの教授に勧められたのがきっかけでした。

審議会が行われたのは、平成25年から27年にかけて。有識者や産業団体の代表、厚田や浜益の地域協議会メンバー、公募により参画する市民などに交じってまちの未来を考えるということに、はじめは戸惑った川浪さんも、グループトークの打ち解けた雰囲気の中で徐々に「バスの乗り継ぎが大変。もっと便利になったらいいですよね」など、現役学生としての思いを語り始めたといいます。

いろんなことも知りました。「同じまちに暮らす高齢者の方や子育て中の方がどんなことを思っているのか。審議会に参加するまで、考えたこともありませんでした」。

9回の審議会を重ね、つくられた新総合計画には、委員たちの想いもつづられています。そこには川浪さんのメッセージ『石狩市の良さをみんなに伝えよう！』もありました。

「私自身、石狩をもっと知って、誇りを持って暮らしていきたい。総合計画づくりに参加して本当にそう思いました。先日、車で厚田と浜益に行ったんですが、気持ちのいい所ですよね！　私のこの感激を子どもたちにも伝えて、誇りや愛着を持ってこのまちに暮らしてもらえたらと」。

計画を動かす力は、こんなところにあるのかもしれません。